

授業科目(ナンバリング)	国際交流研究 (CA116)			担当教員	滝 知則		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<p>私たちは、グローバルに考えローカルに行動することを求められる時代に生きている。こうした状況の下での一つの理想は、複数の文化が存在する世界で一人一人が自分として納得できる個性を持ち、かつ他人の個性を尊重しながら生きていける国際社会を作り出すことである。</p> <p>この科目では、そのような国際社会を作り出す人になるための初めての(あるいは新たな)一歩を踏み出す。具体的には、観光対象と食文化の紹介を通じて異文化を理解し、異文化を持つ人たちと交流できるようになる。</p>							⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	自分の文化の特徴を調べ、異文化を持つ人に分かりやすく説明できる。				定期試験 グループプレゼン	20% 5%	
コミュニケーション力	<p>(1) 各プロジェクトの学習内容を小レポートで報告できる(3回)。</p> <p>(2) グループワークを行う際の課題は何であったか、それをどう解決したかを述べるができる。</p> <p>(3) 各プロジェクトの活動で、異文化を持つ交流パートナーについて何を感じたかを、述べるができる。</p>				小レポート 定期試験 グループプレゼン	10% 20% 5%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	<p>(1) 自他の文化の特徴を、歴史的経緯を踏まえて説明できる。</p> <p>(2) 自他の文化はどこが異なり、どこが似ているかを指摘できる。</p>				定期試験 グループプレゼン	20% 20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験の成績を60%とし、筆記試験を行う。グループプレゼンテーション(30%)では、対象となる文化要素の調査結果と、グループワークの実施状況を評価する。各プロジェクト後の小レポート(10%)で、学習内容の定着を確認する。							
授業の概要							
<p>日本の学生と留学生の学習グループを編成し、グループワーク形式で次の3つのプロジェクトを行う。①イギリスの日本語学習者と、日本語ならびに英語で、観光対象を中心としたお互いの文化を紹介する手紙を交換する、②映像資料を活用して、現代日本のおかれている政治・経済・文化面での特徴を理解する、③「内なる交流プロジェクト」(グループの日本の学生と留学生が、それぞれの食文化を紹介する)。各プロジェクトの終了後、教員からのフィードバックを行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：使用しない。必要な資料を随時配布する。</p> <p>参考書：なし。</p> <p>指定図書：『観光の地平』学文社 2,300円＋税</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>1. 入学以前から知っている、あるいは入学後に学習する観光対象や食文化の理解が、この授業にも役立つ。他の授業で学んだことも、この授業の学習に活用するという問題意識を持ってほしい。</p> <p>2. 授業中の私語は、社会人としてのコミュニケーション能力の不足を示すほか、周囲の他の学生の迷惑にもなるので、厳に慎むこと。正当な理由のない遅刻、欠席、途中退室は認めない。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この授業の到達目標と学習内容を確認する。 小レポート、グループプレゼンテーションについて。	(予習) シラバス (特に授業のねらいと内容) を読んでから出席のこと。
2	自文化の発信と異文化の受信(1)	イギリスの日本語学習者との間で、観光対象を中心としたお互いの文化を紹介するプロジェクトを行う。手紙を読み、感想と質問を記録する。	(予習) 指定された資料から、イギリスの現代史と文化を調べる。
3	自文化の発信と異文化の受信(2)	①前回の感想を提出する。②感想をグループ内で報告する。③返事作成の準備をする。	(復習) 返事作成時の調査項目確認 (予習) 調査準備
4	自文化の発信と異文化の受信(3)	①調査結果を提出する。②返事の下書きを作成する。	(復習) 返事作成で難しかったことの記録。(予習) 返事完成の準備。
5	自文化の発信と異文化の受信(4)	①返事作成で難しかったことのリストを提出する。②難しかったことをグループ内で報告。③返事の完成、提出。④小レポート1。	(復習) プロジェクト1を終えての感想を書く。
6	現代日本の特徴(1)	①資料を用いて、現代日本の特徴を、国際紛争面から理解する。②今日の学習内容をグループで確認する。③調査する関連・類似ケースを決める。	(復習) 今日の学習内容の記録。(予習) 関連・類似ケースの調査。
7	現代日本の特徴(2)	①前回の記録提出。②関連・類似ケースの調査結果の報告。③現在の日本との比較。④分かったことを、国際交流にどう活かすか。 第7回、9回、11回のいずれか1回でグループプレゼンテーションを行うこと。	(復習) 今日の報告から分かったことと、国際交流への活かし方の報告
8	現代日本の特徴(3)	①資料を用いて、現代日本の特徴を、経済交流面から理解する。②今日の学習内容をグループで確認する。③調査する関連・類似ケースを決める。	(復習) 今日の学習内容の記録。(予習) 関連・類似ケースの調査。
9	現代日本の特徴(4)	①前回の記録提出。②関連・類似ケースの調査結果の報告。③現在の日本との比較。④分かったことを、国際交流にどう活かすか。	(復習) 今日の報告から分かったことと、国際交流への活かし方の報告
10	現代日本の特徴(5)	①資料を用いて、現代日本の特徴を、文化交流面から理解する。②今日の学習内容をグループで確認する。③調査する関連・類似ケースを決める。	(復習) 今日の学習内容の記録。(予習) 関連・類似ケースの調査。
11	現代日本の特徴(6)	①前回の記録提出。②関連・類似ケースの調査結果の報告。③現在の日本との比較。④分かったことを、国際交流にどう活かすか。⑤小レポート2。	(復習) 今日の報告から分かったことと、国際交流への活かし方の報告
12	「今・ここで交流」プロジェクト(1)	①プロジェクトの説明。②プロジェクトの企画、スケジュール調整、③プロジェクト企画書の提出。 第12回、13回、14回のいずれか1回でグループプレゼンテーションを行うこと。	(復習) プロジェクトと調査の実施。(予習) 報告の準備
13	「今・ここで交流」プロジェクト(2)	①実施したプロジェクトの内容の報告。②グループプレゼンテーションの実施。	(復習) プロジェクトと調査実施。(予習) 報告準備
14	「今・ここで交流」プロジェクト(3)	①実施したプロジェクトの内容の報告。②グループプレゼンテーションの実施。③小レポート3。	(復習) 小レポート(プロジェクト実施後の感想)
15	全体のまとめ	①小レポート3の提出。②この授業での学修内容をふりかえる。	(予習) この科目のねらいを確認し、学修目標の達成度合いを考える。
16	定期試験		